

FESTIVAL DI CANNES 47-SELEZIONE UFFICIALE

沈黙に支配されて初めて君を愛せた――。

恋人たちが辿る静謐なるエロスへの旅

蝶の夢

Il sogno della farfalla

『肉体の悪魔』『サバス』のマルコ・ベロッキオ監督
アンゲロスロス作品のヨルゴス・アルヴァニティス撮影
ペルイマン作品のビビ・アンドレセン
ティエリー・スラン シモーナ・カバツリ

フィルムアルバトロス製作
1994/イタリア/ビスタサイズ
配給:エスパース・サロウ



《イントロダクション》

無為自然＝人為的な行為を排し、あるがままの姿で生きることを最上とした中国の思想家・荘子の「胡蝶の夢」を思わせるタイトルの本作『蝶の夢』は、『肉体の悪魔』『サバス』で知られる鬼才マルコ・ベロッキオが、社会・家族・言葉などの制度から解放された人間の理想的な愛＝エロスの発現を珠玉の映像美に古典劇やシェクスピア劇からの引用を交えて描いた最新作。14才で言葉を放棄して以来家族とすら心の交流を持たない若い舞台俳優と、彼と唯一心を通じ合っている森に住む“娘”との脆くも甘美な愛の物語。愛が世の様々な言説に埋もれて見出しにくく人々に当惑と煩悶を強いる現在、本作品はベロッキオによる愛についての真摯な回答である。愛の普遍的な形を描いたことで、この物語はいつの時代にも大きな意味を持つこととなった。第47回カンヌ映画祭「ある視点」ではオープニング作品として上映され、物語の新しさとこのうえない映像美が好評を得ている。主人公マッシモ役に、本作が映画は初出演のティエリー・ブラン。“娘”役には、イタリア映画界期待の新人シモーナ・カバッラリ。母親役はベルイマン作品に多数出演したビビ・アンドレセン。母の持つ根源的な性質を見事に演じている。脚本は気鋭の精神科医マッシモ・ファジオリ。ベロッキオとは『肉体の悪魔』以来の協力関係。撮影監督はアンゲロプロス作品で馴染みのギリシャ人ヨルゴス・アルヴァニティス。網膜に突き刺さるようなイタリアの原色とギリシャ神話的灰色、静と動のきわどい均衡を感じさせるバーンなど、当代きっての撮影監督の第一級の仕事。

カンヌ映画祭正式出品作品

監督：マルコ・ベロッキオ

撮影：ヨルゴス・アルヴァニティス

出演：ビビ・アンドレセン

ティエリー・ブラン

シモーナ・カバッラリ

『肉体の悪魔』のM・ベロッキオが描く
言葉無きエロスの世界

蝶の夢

Il sogno della farfalla

フィルムアルバトロス製作
1994年/イタリア/カラー
ビスタサイズ/111分
配給：エスパース・サロウ
提供：(株)新日本映画社

《ストーリー》

若き舞台俳優のマッシモ（ティエリー・ブラン）は日常的な言葉を14才のときから放棄している。なぜ彼が言葉を捨てたのか、周りのものは様々に解釈するが彼と唯一心を通じ合っているのは森に住む“娘”（シモーナ・カバッラリ）だった。

舞台で演ずるマッシモに天賦の才を感じた演出家ジュリアーニは、マッシモが言葉を捨てたことに衝撃を受け、詩人であるマッシモの母（ビビ・アンドレセン）にマッシモ自身を主人公とする舞台の脚本を依頼する。彼女はこの仕事により長い間の彼との隔たりを埋めようと思い仕事を請けることにする。

母のように彼の周りのものたちは、マッシモに心開かせるという共通の目的で各々の方法を試みる。大学で考古学を講ずる彼の父（ロベルト・ヘルリツカ）はマッシモの生意気さといにしへの知恵への軽視を責め、物理学者の兄カルロ（ヘンリー・アーノルド）は、巨大な地下実験場へマッシモを連れ出し人類の発展に寄与することの価値を示す。兄嫁アンナ（ナタリー・ブトッファー）は彼の秘密を知りたいと望み、同時に自らの欠乏感を満たそうとして体で誘惑する。

だがマッシモは一向に言葉を話そうとはせず、森に住む“娘”のみに心を開くのであった。二人はクレタ島にある父の発掘現場へオートバイで旅立つ。旅の途中の円形劇場の遺跡では言葉を交すこと無く戯れあい、湖のほとりでは若く美しい裸体を横たえてまどろむ。甘美なときが過ぎる。しかし家族の待つクレタ島に着いた二人には新たな試練が待っていた…。



2月15日(土)よりロードショー!

特別鑑賞券絶賛発売中! ￥1400(当日一般￥1800の処)

劇場窓口、都内プレイガイドにてお求め戴けます。

銀座三越先・歌舞伎座手前

銀座シネパトス

03 (3561) 4660

連日 12:30 2:40 4:50 7:00